

## 平成25年度第2回印旛地区地域審議会 会議録

- 1 開催日時 平成26年3月4日(火) 午前10時～11時30分
- 2 開催場所 ふれあいセンターいんば 3階研修室
- 3 出席者 荒木充 会長、笠井重夫 委員、星弘光 委員、片倉恵美子 委員、関野庄悦 委員  
伊藤益美 委員、石月昇一 委員、石見泉 委員、竹内仁 委員
- 4 欠席者 石井照次 委員
- 5 事務局 堀江企画政策課長、小林主幹、中野主査補
- 6 傍聴者 なし
- 7 議事 (1) 印西市総合計画の進行管理(今後のまちづくり)に対する意見書の所管課対応方針について  
(2) 平成25年度印西市市民満足度・重要度調査報告について  
(3) その他
- 8 議事録(要点筆記)

事務局 平成25年度第2回印旛地区地域審議会を開催いたします。会議に先立ち報告をさせていただきます。

まず、本日の出席委員数ですが、石井委員が所用により欠席となります。よって本日は9名の委員が出席ということで、定足数に達しておりますので、会議として成立することをご報告いたします。

次に、会議録の署名人ですが、石見委員、竹内委員にお願いいたします。

次に、傍聴者ですが、本日の傍聴者はありません。

最後に、昨年12月の人事異動後初めての会議ということで、事務局の担当職員が替わりましたので、報告させていただきます。

【小林主幹・中野主査補あいさつ】

事務局 それでは次第に従い議事に入らせていただきます。議事進行につきましては、規定に基づき荒木会長に議長をお願いします。

【会長あいさつ】

議長 それでは、議事進行を務めさせていただきます。よろしくをお願いします。

議事に入ります。(1) 印西市総合計画の進行管理(今後のまちづくり)に対する意見書の所管課対応方針について、事務局から説明をお願いします。

【事務局説明】

議長 それでは、事務局の説明が終わりましたので質問があればをお願いします。

委員 電気柵、罾を仕掛けて対応しているが、これだと防衛策で減る対策にはなっていない、自然相手ということで簡単にはいかないと思うが、減る方向にはならないものか。

事務局 猟友会の方にイノシシの駆除を委託し対応中で、箱罾、銃による射殺がメインになっています。ただ、繁殖能力が旺盛ということで、対応が追い付かないというのが実情です。抜本的な解決策を施さないと、農業従事者の方の意欲を削ぐ形となりますので、その辺りについては、担当課の方に伝えさせていただきます。

委員 他に被害が出ている自治体で、効果的な対応策の報告は無いのか。

事務局 南房総地区は、イノシシをはじめシカなどの有害鳥獣の被害が大きい地域ですが、未だ有効的な解決策というものが無く、抜本的解決には至っていない状況です。印西も猟友会の協力を得て、コソコソと対応するしかない状況です。ただ、猟友会の方も高齢化の波があるということで、年々会員数も減少している状況であります。そこで、免許の取得に関して平成26年度市は補助を行い猟友会の会員数の維持拡大に努めて、駆除するしかないという事を聞き及んでいる現状です。

一部ではイノシシの肉を使っての地域おこし等を行っている自治体もございますが、印西市の場合ですとイノシシの肉が放射能の関係で難しいものですから、有効対策が見当たらない状況です。

猟友会に委託して駆除を行っておりますが、免許取得者の数を増やしてイノシシの駆除数を増やしたいというのが農政課の現状の考えです。

委員 一般人が罾を仕掛ける資格を取得するのは難しいのか。例えば、一般人が罾を仕掛けて、罾にかかった時に猟友会に対応を依頼するという方法も考えられるのではないのか。

委員 一般人は罾を仕掛けてはいけない、資格が無ければ違反になってしまう。

委員 資格は簡単に取得出来ないのか。

委員 有害鳥獣の場合は、県で特別に研修を受ければ、資格を取得出来るらしい。私は昨年、狩猟免許を罾と猟銃の両方を取得したのだが、結構費用がかかる。市の方で補助金を出すみたいだが、狩猟者を増やし、捕獲する算段をしないと減らない。

委員 銃は無理としても、各地区に罾の資格を持った人が5、6人いれば、猟友会任せ以外の対応がとれるのではないのか。

事務局 猟友会のみですと数に限りがありますので、罾の免許を一般の住民の方に取得していただき、捕獲したら市の職員又は猟友会が取りに行く方法もあると思います。

委員 罌の免許も20歳から18歳に引き下げられている。有害鳥獣の問題は日本全国の問題で、別に千葉県だけの問題ではない。

事務局 人的被害については、車にぶつかったという報告はございますが、人身事故の報告はありません。しかし、イノシシの数が増えれば餌の不足により他の自治体のように市街地に出没の可能性あります。小さなお子様、お年寄りの方が襲われるという危険性もあります。  
なるべく早い時点で歯止めをかける必要があることは、担当課である農政課も認識しています。

議長 何頭生息し、何頭駆除したという目標を立てないと積極的な解決にはならない。1.5倍に増えていくとなると相当な数に増えてしまう。

委員 捕獲数は今年度140数頭だと思う。昨年は3、40頭だったと思うが、25年度急に増えた。

事務局 こちらの把握ですと、昨年、一昨年ともに補助金を出した件数が130件、今年度は今現在170件くらいと聞いています。年々数は確実に増加していると思います。

委員 この先、この地区に限って言えば自然環境がそう変化するとも思えない、数が増えると大変である。毎年、小さな対策を立てるのではなく、先に向かった大きな対策を立てないと、難しい。数が増えるなら活用する方向で考えると、長期的に考えなくてはならないと思う。

委員 一般の人の協力を得て対策を考えないと猟友会だけでは減らないと思う。

議長 猟友会は市から依頼されて駆除業務にあたっているのだから、市の方にもう少し減らす対策を考えてもらえればと思う。

委員 農政課にイノシシ対策の現状を聞いたときは、猟友会に任せてあるという回答だった。

議長 猟友会も高齢化、会員数の減少ということで負担になる、対応策を市の方で考えないと数が増えてしまうと思う。

委員 子どもの友人は自転車にイノシシがぶつかり、自転車は保険で修理したが、本人は擦り傷程度だったので警察に届けなかったという話もある。被害届が出てない事例は結構あると思う。

事務局 先程、議長からもありましたが、どこにどれだけ生息しているか把握をしなければ対策のしようもないので、見かけた場合は市役所への通報を呼び掛け、出没地を地図に落とし、駆除の参考にすることも考えられます。担当課である農政課に委員の皆様の意見を伝えます。

委員 猟友会へ市から懸賞金の様なものは出ているのか。1頭いくら出ているのか。

委員 猟友会へ1頭につき一万円支払いを行っております。殆どボランティア的にやって頂いている状況です。

委員 イノシシの出没マップを作ればいい、農政課で出没地は把握しているのではないか。

事務局 そういったものを作れば市民の方へ注意喚起が出来ると思います。イノシシ問題については深刻なものですから、地域審議会の貴重なご意見を担当課の農政課へ伝え、今後の対策に役立てていきたいと思っています。

議長 他に質問がなければ(2)平成25年度印西市市民満足度・重要度調査報告について、事務局から説明をお願いします。

**【事務局説明】**

委員 合併後、旧印旛、本埜は置いてきぼり感があり、住みよさランキングのデータが合併後のものならば、市民が不満を感じている状態で日本一の市になれるのか疑問である。平均的に不満が無いところが日本一だと思う。これだけ印旛・本埜地区の人が不満を持っている調査結果を見ると、市が力を入れるべきは公共交通基盤の整備だと思う。

合併後、力を入れる部分というのは一部を引き上げるのではなく、印西市の平均的な部分を引き上げることだと思う。そのためには、印旛・本埜地区に力を入れたまちづくりが喫緊の課題だと感じる。

議長 取り残されたと考える人が35.9%いるということの重みはどれ程のものなのか。回答した方の3分の1がそう考えているということは重いということだと思う。

事務局 そういう認識を持つ方が3割いるということは、かなり重い意見だと思います。

委員 設問の仕方も合併すると中心は良くなるが、周りは取り残されるというような言い回しが常に載っていた、だから簡単にそう考えてしまったのではないか。

事務局 設問の仕方、受けての取り方でかなり変わってくると思います。市として格差のないまちづくりを鋭意進めているところです。ふれあいバスを例にとっても、実証運行として印旛ルートを開けているところですが、その評価が近い将来出て、その評価を踏まえてルートの見直しを図っていくと思います。

先程の住み良さランキングにつきましては、2年連続印西市が日本一になったということで、数値については合併後の数値を採用された結果であると思います。評価にあたっての設問項目は5項目だったと思いますが、公園の面積とか、病院の病床数などの行政データを基本に行われていると思いますので、先ほど委員の言われたような住民の意見が反映されたもの

ではないというのが実情でございます。住民の皆様の意見を反映させ、真に住み良さが一位になるような形に持っていかねばと思います。

**議長** 中心部と周辺部が同じようなレベルの整備というのはあり得ないと思う。ただ、同じにはならないという理解はあるが、もう少し何とかして欲しいという感情があるのではないかと。取り残されたという感情が湧かない施策をお願いしたい。

**委員** どういう点を取り残されたと感じるのは、回答する側の感覚で異なる。

**議長** どこでそう思うのか、踏み込んだ設問も再質問があれば、より分かると思う。取り残されたというのが合併の決まり文句のようになっているので、自然と取り残されたという回答になってしまうと思う。どこが、どういうところがという点まで聞けると取り残されたと感じる感情の元が分かるのではないかと。

**事務局** 重要度・満足度調査については2年に1度実施する形ですので、今後はただ単に取り残されたという形のものではなく、どういうところがという点まで踏み込んだ設問を考えていければと思います。

**委員** 合併に関しての不満に関連していうと、1つは行政と市民の間の一体感、もう1つは地域間での一体感がある。どうしても合併前の印西地区、印旛地区というブロックに分けて物事を考えてしまう、これは合併を成立させる上で重要なかもしれないが、地域間での一体感も大切だと思う。今回満足度・重要度調査を行い、それを行政に反映していくという話があった。そこが非常に大切だと思う。中央集中に関わる不満、合併後満足度が感じられないという指摘に対して、取り組んでいるというその姿勢、それが大切である。特にこういう大きな調査をした場合は、しっかり次の行政サービスの中に活かして欲しい。

もう1つ地域間の一体感については、どう醸成していけばよいか、行政サイドから知恵を出してもらえればと思う。地域の課題、一体感をどう解決するか、これは大変な課題だと思う。

**事務局** 他の自治体でも行政と住民の一体感とか地区同士の一体感、その課題に直面している自治体が多いと思います。市としても行政と住民の一体感なくして印西市が目指すまちづくりというのは出来ないと考えています。難しい問題であると思いますので、一步一步着実に進めていきたいと思っています。

**委員** そのなかで、行き来がし易い仕組み作りというのは大切かも知れない、予算との関係もあり大変だと思う。

**事務局** 市民の方から公共交通の充実ということでかなりのご意見をいただいています。その1つとしてふれあいバスがありますが、ふれあいバスの1つの考え方としまして、基本的には市内の民間のバス路線を主に置いて、それ以外の交通不便地域をふれあいバスで補っていくと

いう考えですので、ある程度路線バスと競合しない様なところということになります。ルート設定もなかなか厳しく、本来であれば、各施設をぐるぐる回ればいいのですが、そういうわけにもいかないのが実情です。

委員 市で採算が取れない民間バス会社に補助をしているのか。

事務局 印旛地区においては3路線に補助をしております。

委員 印旛地区だけか。

事務局 印西地区では北総バスに補助をしております。

委員 小学校について、児童数が減少している、平賀小、六合小、宗像小も1クラスずつになり、人数も大分少なくなってきたと思う。その辺りはどうなっていくのか。

事務局 児童数の格差というのは千葉ニュータウン地域とそれ以外の区域でかなりの格差があると思います。管轄は教育委員会になりますが、今後に向けて、通学区域の見直し等も含めて取り組んでいくと思います。

議長 他に質問が無ければ、(3)その他について事務局から説明をお願いします。

【事務局より行政組織の改編について説明】

委員 職員の人件費は計画通り適正化されているか。10年くらいの計画があったと思う、それに照らしてどうか。

委員 合併時には職員数737人おり、その後定員管理計画というのを策定し、平成26年度目標職員数については660人としています。現在平成25年4月1日現在の職員数については、671人で、定員管理計画からみると28人減という形です。人件費につきましても28人分の削減につながっていると思います。

委員 個人的には一人ひとりの給料を減らすべきではないと思う。人数を減らして、一人ひとりの給料を維持するという形にすべきだと思う。確実に進められているという理解で良いか。

事務局 はい。

委員 佐倉市に順天堂大学が立地する目途がついたという情報が紹介されていた。広報いんざいでは市と順大との連携協定について載っていたが、順大が移転するという事はないか。

議長 分からないが、平賀を残して、佐倉に移転は考え難いのではないか。

委員 平賀に佐倉キャンパスとして大きな面積を要しておりますが、若干拡大したいという考えは持っているのかもしれませんが。

順天堂大学では国際教養学部を新設する予定であります。これは本郷の方に平成27年度オープンということで準備が進められているという話は聞いています。

委員 本郷、東京の方か。

事務局 はい、こちらではございません。こちらはスポーツ健康科学部でございます。

委員 住民の願いとしては、そっくり移転されてしまうのは困る。

委員 これからは印西市の強み、印西の持てる強い資源、それを前面に出して印西市の自立を図るという努力をする。そのなかで、健康医療のまちづくり、順大があり、日医大があるので、それを前面に出しながら医療福祉のまちづくりを行えば、非常に強みとなる。印西市が抱える強みを整理しながら、是非それを前面に出しながらまちづくりにあたっていただきたい。

議長 合併前は交付税の不交付団体で、合併後に交付団体になったわけですが、合併が無ければ、国からのお金が無くても、やっていける財政基盤のしっかりした団体だったのか。

事務局 税関係、自主財源の比率が単独の時代は千葉ニュータウンの関係で高く、ニュータウンの進出企業の話もあり、税収的には需要を上回った収入があったという状況です。

委員 先程順大の話があったが、日本医大も当初の予定よりは計画が大分小さいと思う。開発されていない土地が病院の周りにはかなりある。その辺も理事長に働きかければ良いと思う。

議長 今のところ、半分くらいしか使っていないと思う。獣医畜産大学を作るという構想あったらしいが、時節に合わなくなってしまったのではないかと思う。

委員 当時村にも構想が提示されていたと思うが、大変な計画があった。多分レイアウトもあるはず。行政サイドからの働き掛けはあった方が動議づけに非常に大きくインパクトを与えると思う。

議長 病院の方も事情が色々あって、計画通りに出来ない事情もあるのだろう。確かに、委員のいうようにもともと広大な計画があって、用地の方も確保したのだろう。

他に質問が無ければ、議事について全て終わりましたので、進行を事務局にお返しします。

事務局 ありがとうございます。それでは続きまして、次第4その他ですが、何かございましたら、挙手をお願いいたします。

委員 印西市役所が市の中心に来る計画は無いのか。

事務局 現在の所は分かりません。

委員 支所の本館を減らしたが、本館の建物はどうなるのか。

事務局 来年度解体となります。その後の用途については、駐車場になると思われます。

事務局 今後のスケジュールについてですが、来年度8月31日まで委員の任期があります。諮問について、中間答申を頂いているところですが、最終的な答申を8月末までに頂きたいと考えています。また、毎年度行っております、施策評価と事業評価についても5月31日出納閉鎖が終わった後、おそらく今年度同様6月末か7月に会議を開催させて頂き、委員のご意見を頂戴したいと思います。先程もお話しましたように8月末までの任期中に本会議を2度開催させて頂きまして、最終的な答申を頂ければと考えていますのでよろしくお願いいたします。今後のスケジュールについて、何かございますか。

委員 8月までに2回という事は、6月か7月辺りにあるのか。

事務局 1度7月頃に施策評価、事業評価について、報告をしご意見を頂ければと考えています。それを踏まえて、もう一度会議を開きまして、最終的な答申をいただきたいと思います。その他委員の方からは何かございますか。  
※特に質問等なし

事務局 それでは以上をもちまして、平成25年度第2回印旛地区地域審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。

会議資料

- ・ 印西市総合計画の進行管理(今後のまちづくり)に対する意見書の所管課対応方針について
- ・ 平成25年度印西市市民満足度・重要度調査報告について
- ・ 行政組織の改編について

平成26年3月27日

印旛地区地域審議会委員

竹内 仁

印旛地区地域審議会委員

石見 泉